

生きもののシンフォニー

いのちがやくなごや

令和6年9月
43号

特集

なごや生物多様性サマースクール2024



7月20日(土)

竹林調査と水鉄砲作り
講師:大高竹の会



7月21日(日)

田んぼと畑で生き物さがし
講師:NPO法人日進野菜塾



7月23日(火)

植田川の水生生物調べ
講師:名古屋市環境科学調査センター



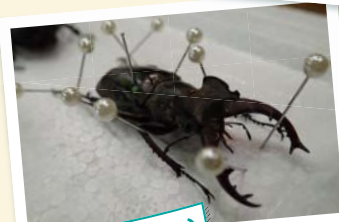
7月25日(木)

外来種の昆虫を採って
駆除しよう
講師:ピオトップ・ネットワーク中部



7月27日(土)

チョウの採集と標本づくり
講師:名古屋昆虫同好会



7月27日(土)

甲虫の採集と標本づくり
講師:名古屋昆虫同好会



7月28日(日)

巣箱を作って森に
小鳥を呼ぼう!
講師:相生山緑地オアシスの森くらぶ



7月28日(日)

天白川の水源地を訪ねてみよう
講師:名古屋自然観察会



7月30日(火)

押しプラクトンの
キーホルダーを作ろう
講師:名古屋市環境科学調査センター

CONTENTS

特集

なごや生物多様性サマースクール2024 P1~3

- TOPICS クビアカツヤカミキリによるサクラの被害が深刻化! P3~4
「動物の骨を作ろう」講座を開催して P5
- 活動紹介 NPO法人なごや東山の森づくりの会 P6
- 掲 示 板 「なごや生物多様性センターまつり/ユースひろば」を開催します P6



なごや生物多様性 サマースクール2024

子どもたちの夏休み期間中に開催されたサマースクール。生きものを採集して研究したり、調査したり、ものづくりしたり…笑顔があふれた全9講座から2講座の様子をご紹介します。

(主催：なごや生物多様性保全活動協議会)



田んぼと畑で生き物さがし

7月21日(日) 講師：NPO法人日進野菜塾

場所 田畑、用水路(日進市)



あっ!動いてる

捕まえた生き物をじっくり観察

「生きものはつながっている」生態系の説明に聞き入る子どもたち



田畑のまわりには、昔から豊かな生態系が広がり、現在もさまざまな生きものが生息しています。今回は、講師であるNPO法人日進野菜塾が運営する無農薬栽培の田畑で、そこに生息する生きものの調査を行いました。

調査の前には、講師が「田んぼの水は昔、川から流れて

おり、フナやメダカなどが稲と一緒に育っていました」と、日進市周辺の田んぼの生い立ちについて解説。さらに、生きもの同士のつながり、農薬や化学肥料の使い過ぎによる生態系への影響についても説明をしていただきました。

その後は、お待ちかねの生きもの調査タイム。前半は田んぼに生息する生きものの採集を行いました。始めは、おそろおそろ田んぼに足を踏み入っていた子どもたちですが、ゲンゴロウの仲間、コオイムシ、ヤゴ、ドジョウなど、ふだん目にするこのない生きものを目にとると、たちまち夢中に。見つけるたびに歓声を上げ、「これは何ですか?」などと講師に質問をしながら、目を輝かせていました。

後半、畑ではショウリョウバッタ、カマキリ、イナゴ、用水路では農作物を食害する外来種のジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)などを採集。捕まえた生きものは種類ごとに分類し、生態について講師の説明を聞いたり、顕微鏡を使って採った水の中にいるプランクトンの観察を行ったりして理解を深めていました。またイベント終了後にも、採集した生きものの飼育方法について、熱心に質問する子どもたちの姿が見られました。

そこに何かいるよ!



外来種の昆虫を 採って駆除しよう

7月25日(木)

講師:ピオトップ・ネットワーク中部

場所:猪高緑地(名東区)

いろんな虫を
発見!



地面から木の幹まで
じっくり見てみよう

その後、外来種が多く目撃されるアーチェリー場前の駐車場や緑地東部の竹やぶ、枕木道を探索。周辺の環境や樹木の種類によって、生息する昆虫は異なります。1時間ほど探索した結果、キマダラカメムシ、キボシカミキリなどの外来種だけでなく、ナナフシモドキやカブトムシ、オオシオカラトンボなどの在来種を発見。全員が真剣に昆虫探しや昆虫採りに取り組み、何種類も採集した参加者もいました。

今回の活動では、採集した外来種を薬品入りの瓶に集めて駆除するところまで実施。最後に集めた虫の種類を発表し、参加者へ外来種カードを配付して終了しました。身近な場所に外来種がいること、外来種の見分け方や駆除方法など、在来種を保護する取り組みについて学ぶ機会となりました。



採集した外来種の説明

名古屋市の東端に広がり「いたかの森」の名称で親しまれている猪高緑地。タイワンタケクマバチやキマダラカメムシ、ヨコヅナサシガメ、ムネアカハラビロカミキリなどの外来種が生息し、在来種の生息環境を脅かしています。今回は、広大な緑地内に生息する外来種の昆虫の種類を確認し、森の中での採集・駆除活動を体験しました。

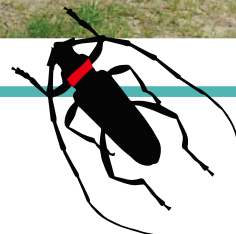
出発前にはクイズ形式で外来種の名前と見分け方をレクチャー。昆虫の写真が貼られたパネルを指導員がめくるたび、参加者らは元気に昆虫の名前を挙げていました。

桜の木で
キマダラカメムシ発見!



TOPICS

クビアカツヤカミキリによるサクラの被害が深刻化!



【クビアカツヤカミキリとは】

クビアカツヤカミキリ(以下、クビアカ)は、幼虫がサクラやウメ、モモなどの樹木内に入り込み、樹皮のすぐ内側にある水分・養分の通り道を食べて枯らしてしまう非常に厄介な外来種です。

原産地は中国やモンゴル、台湾、ベトナムなど。国内初確認は2011年(埼玉県)で、愛知県では2012年に確認され、尾張西部を中心に分布を拡げつつあります。

成虫の発生期は6~8月で、繁殖力が非常に高く、1匹のメスが1,000個近くの卵を産むことが知られています。

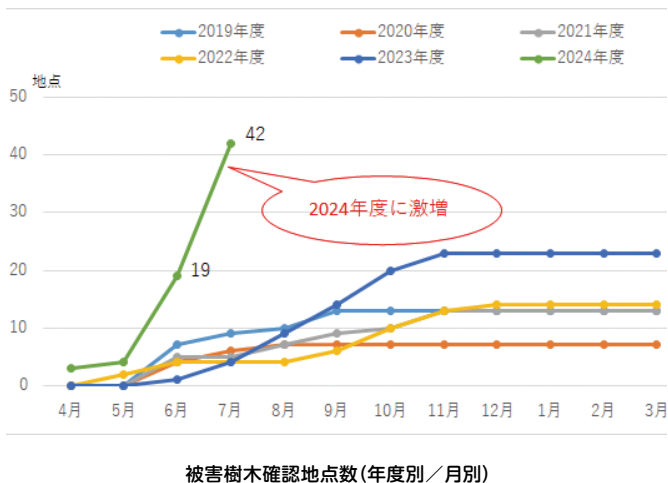


激しく被害されたサクラ
(左:大量のフラスが堆積 右:樹皮を剥くと内部が食べられている)

【被害が深刻なのは港区と中川区】

名古屋市内における被害状況は、2019年の初確認以降、8区112地点で計539本の樹木被害が確認されています（2024年7月末現在）。

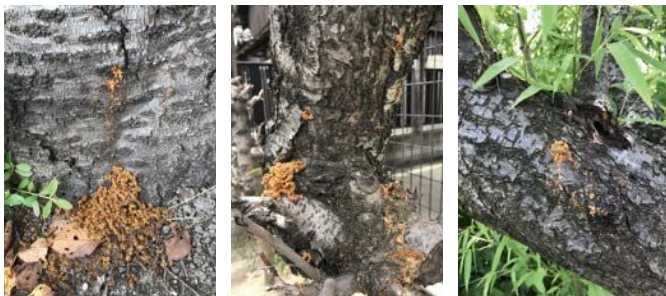
被害が深刻なのは港区（73地点427本）と中川区（31地点95本）で、特に今年に入ってから被害地点が激増しており、蔓延に近い状態になりつつあります。



3年かかることが多いように思われます。この間、幼虫はフラスと呼ばれる木クズと糞の混じったものを樹皮に開けた孔から大量に排出します。

フラスには齧^{かじ}った生木が多く含まれるため、排出直後はオレンジ色をしています（時間の経過とともに褐色となります）。

また、フラスの発生場所は目の高さより低い場合が多いことから、比較的簡単に見つけることができます。



被害初期のフラス

【樹木点検を5～10月に実施しましょう】

そこで、幼虫の活動が活発となる5～10月に樹木の幹や周囲の地面（フラスが降り積もっている場合があります）を定期的に点検し、フラスが発生していないかを確認します。

クビアカ以外にもフラスを排出する昆虫がいることから、クビアカのものかどうか判断するには慣れが必要です。



フラスの違い(左:クビアカ 右:ゴマダラカミキリ)
粒子がゴマの薄切り状をしているのがクビアカの特徴

【フラスを確認したらセンターへ連絡を】

樹木点検によってクビアカのフラスらしきものを確認した場合は、なごや生物多様性センターへフラスの写真をメールでお送りください。職員がクビアカによるものかどうかを判断したうえで現地を訪問し、被害状況に応じた防除方法をアドバイスさせていただきます。

なお、防除方法には樹皮を剥がして幼虫を掘り捕る、フラス排出孔へスプレー剤を注入する、樹幹注入剤により樹全体へ薬剤を行き渡らせるなどの方法があります。

被害樹木を放置すると、そこから成虫が発生し、被害の拡大へつながってしまいます。大切な樹木をクビアカの被害から守るため、早期発見・早期防除にご協力ください。

【分布域が拡大中】

更に気になるのは、分布域の拡大です。昨年^{2023年度}の天白区（1地点3本）に続いて、今年は千種区（1地点1本）や守山区（1地点2本）でも樹木被害が確認されました。これに成虫の目撃情報を加えると、もはや市内のどこで被害が発生してもおかしくないような状況です。



【防除で大切なのはフラスの早期発見】

被害の拡大を食い止めるために必要なことは、早期発見・早期防除です。

クビアカは成虫になるまで1～3年かかりますが、名古屋では

「動物の骨を作ろう」講座を開催して

皆さんは動物の骨に接した経験はありますか?科学系の博物館や動物園などに行った際、いわゆる「骨格標本」として展示されているのを見たり、(運が良ければ)触ったりした経験があるという方は多いと思います。しかし、実際に骨を標本にする工程、いわゆる「骨作り」を経験したことのある方は稀なのではないのでしょうか。センターでは、まず煮込み鍋で加温して骨の周囲に付着した軟組織(筋肉や脂肪など)を柔らかくし、水洗しながらこれをブラシ等で除去した後に風乾させて標本としています。工程は比較的シンプルなのですが、小さな骨や歯を取りこぼさないように気を配るなど、根気を要する作業でもあります。それでは、なぜこのような労力をかけて骨作りをするのでしょうか?それは、動物の骨や歯からは様々な情報、例えば食性や年齢、事故や病気になった痕跡などを読み解くことができるからです。普段から骨作りに携わっているものとしては、この事実をより多くの方に知ってもらいたいと思っています。

そこで、「ちょっと早い夏の自由研究 動物の骨を作ろう」講座を、2024年6月22日にセンターで開催しました。前日から煮込み鍋で加温しておいたニホンカモシカ(以下、カモシカ)の頭部を鍋から取り出し(写真1)、水洗してパーツごとにバットに並べるまでの様子を実演しました。その後、各組につき1頭のカモシカの頭骨を水洗してもらいました(写真2、3)。参

加者全員が骨を作る作業は初めてで、最初は骨の扱いに戸惑う様子が見られましたが、徐々に作業に夢中になっていき、「もっと洗いたかった」という意見も聞かれる程でした。水洗後は、カモシカの生態や歯の特徴などに関する座学を行いました。この中で、草食性であるカモシカの歯の特徴や咀嚼の仕方、角にある縞模様(角輪)の数で年齢が分かること、高齢になると歯周疾患で歯を失う個体がいること、などを解説しました。その後、自分たちが水洗したカモシカの頭骨を観察し、1.年齢、2.歯の本数、3.歯周疾患の有無、4.失っていた歯の本数を観察し、「カモシカ・カルテ」を完成させました(写真4、5)。本講座を通して、動物の骨や歯は、動物の特徴や生き様などを知るための重要な手がかりとなることを体験してもらいました。死体から得られた骨から、その動物の生き様が見えてくるなんて、とても面白いと思いませんか?

今回作製したカモシカの頭骨は、冬に開催を予定している「動物の歯型をとろう」講座で活用する予定です。この講座では食性の異なる動物の頭骨を使って歯型模型を作り、動物間でどのような相違があるのかを見較べてもらうものです。本紙を読んで動物の骨に興味を持った方は、こちらの講座にもご期待ください。

(生物多様性専門員 曾根啓子)



カモシカの頭部を煮込み鍋から取り出す



歯ブラシを使って骨や歯、角を水洗する



水洗が終わった骨などをパーツごとに並べる



各自が水洗したカモシカの頭骨を観察する



カモシカの角輪数を数えて「カモシカ・カルテ」に記入する



活動紹介

NPO法人なごや東山の森づくりの会



名古屋の東部丘陵には東山動植物園、墓園、東山公園と平和公園があり、雑木林も池もある里山があります。さて、森づくりの会の黎明期の話です。1977年8月に平和公園南部が'88名古屋オリンピック候補地となりました。一部の市民が「子どもらに自然を」と招致反対運動を始め、I.O.C総会まで行き、当時、珍しかったロビー活動も行いました。結果として、'88オリンピックはソウル開催となりました。その後も、「自然を継ぐもの」として残り、1981年から「不思議発見の平和公園自然観察会」を始めました。森は遷移し、里山の烏ホオジロは姿を消し、森のハシブトガラスが増え、ツツジ類が衰退し、常緑樹で森は暗くなりました。そこで、1999年、自然観察会は名古屋新世紀計画2010に「協働による森づくり」を提案しました。名古屋市は有識者・市民による協議会を開き、議論や現地踏査を実施し、2003年「なごや東山の森づくり基本構想」を策定・公表しました。2004年に「なごや東山の森づくりの会」が設立し、本格的に協働の森づくり活動が始まりました。さらに、有識者、名古屋市みどりの協会、なごや環境大学と、2022年から「なごや東山の森 水辺・湿地保全再生プラン策定プロジェクト」を立ち上げました。自然観察会は、今も続いています。



田んぼ班(田植え前の代かき)



東山の森 スカイツーから



落ち葉の浚渫作業



里山の家の展示風景

なごや東山の森は自然共生サイトに認定 2024.3

1.生物多様性の恵み(生態系サービス)の提供の場

在来種を中心とする多様な動植物種からなる健全な生態系があり、自然に親しめる散策路、動植物園など名古屋にとって生物多様性がもたらす恵み(生態系サービス)を市民に提供する場となっている。

2.希少な動植物種の生息の場

ヒメタイコウチ、ホトケドジョウなど希少な動植物種が生息生育している場となっている。

3.市民行政による協働による保全

市民・企業・行政の協働により、木竹の除間伐、農作業などにより里地里山を維持するとともに、こども森づくりなど環境教育の活動を長年継続している。

掲示板

第9回 なごや生物多様性センターまつり

令和6年11月9日(土) 10:00~15:00

会場 なごや生物多様性センター

小雨
決行

入場
無料

なごや生物多様性センターで保全している水生生物のミニ水族館や収蔵標本のミニ博物館を特別公開します。身近な自然や生きものについてのワークショップなど、子どもから大人まで楽しく学べるイベントを開催します。

同時開催 生物多様性ユースひろば ▶ 中高生たちが生きものに関する日頃の活動などを発表します。



「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイト!



問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー

検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄
塩釜口駅2番
または
3番出口から
徒歩5分



生きものシンフォニーのバックナンバーは、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きものライブラリー」でご覧いただけます。